

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー-14

北海道-2



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。右上の写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場します。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔北海道-2〕 2020年6月14日~15日

聖火リレーコースは6月14日 函館市~白老町、15日 苫小牧市~札幌市です。

寅次郎、2001年（平成13年）9月「第14回北海道ツーデーマーチ」で洞爺湖に来ています。前年の「第13回」に参加予定でしたが、3月の有珠山の噴火で中止になりました。日本ウオーキング協会の呼びかけで義援金を寄付した所、「第13回」は「友情大会」として参加証明が送られてきましたが、コースを歩くのは今回が初めてです。

移動の便利なツアーを利用し、いつもより豪華なホテルでした。

大会1日目は「洞爺湖畔・豊浦パノラマコース」スタートは洞爺湖畔。ロマンを感じさせる姿の洞爺湖、秀峰羊蹄山・ニセコ連峰の美しいロケーションが田園地帯に広がり、やがて目の前に海の幸が豊富な噴火湾のパノラマが広がりました。ゴールの豊浦温泉「潮騒」で海を見ながら温泉に浸かりました。夜は連日の花火大会で花火が湖上を燃やしていました。花火大会は4月から10月までのロングランで毎日開催されていました。ウエルカムパーティ（500円）では地元のご婦人たちが持ち寄った手作り郷土料理を美味しくいただきました。

2日目は「北の湖記念館・壮瞥公園コース」。湖畔の彫刻公園をぐるっと歩き、眼下に洞爺湖を眺める壮瞥公園からの景色を堪能しました。果物の里・壮瞥町を通り、チェックポイントの「北の湖記念館」でりんごをいただきました。ここは大横綱北の湖の故郷です。美味しいりんごと広大な自然を楽しむコースでした。まだ、有珠山噴火からの復興はまだ途半ばで被害の爪痕が残っていましたが、復興に取り組む元気な人々の姿を見ることが出来て安心しました。

映画の寅さん、1979年（昭和54年）8月公開の第23作「男はつらいよ 翔んでる寅次郎」で支笏湖に来ています。柴又で寅さんの結婚を願う満男の作文に恥さらしと怒り、旅に出ます。旅先の北海道で結婚に悩む、田園調布の令嬢ひとみ（桃井かおり）を助け助言。ひとみは結婚式のお色直しから逃げ出して寅さんを頼って、とらやに駆け込みます。寅さんも帰ってきて面倒を見ます。結婚相手がとらやを訪ね、失恋仲間の寅さんと仲良しに。寅さん、ひとみへ恋をした男の気持ちを助言、お互いを親から独立させ、二人の仲をまとめます。寅さんとさくらが仲人で結婚祝賀会が開かれ、ひとみ「寅さんが人のことを考えることを教えてくれた」と語ります。今回は恋をせず、恋の指南役に徹した寅さんです。北海道でひとみを助ける原因を作った男が宿の若旦那で宿代の無かった寅さんは大助かりでした。



1970年（昭和45年）8月公開の第5作「男はつらいよ 望郷編」で、寅さんは札幌・小樽に現れています。舎弟の登の情報「元テキヤの親分が死にかけている」でさくらに借金して札幌へ。そしてD51機関士をしている親分の息子を探して小樽へ。油にまみれて働く息子に会い、舎弟の登と「地道な暮らしを」と盃を割って柴又へ戻ります。寅さんは千葉県の浦安の豆腐屋で油にまみれて働き、恋をします。

続きは、「聖火リレー-17 千葉県」でお話しします。

1981年（昭和56年）12月公開の第26作「男はつらいよ 寅次郎かもめ歌」で

寅さんは江差・奥尻島に現れています。さくら夫妻が念願の一戸建の新居を持ちます。優しいさくらが寅さんの部屋も準備すると、感激した寅さんは源公から借りた2万円で新築祝いを出します。さくらの夫の博、高額だと遠慮して全部は受け取らず、寅さん怒って旅に出ます。江差の商売で仲間の死を知り、香典を持って奥尻島へ墓参り。娘のすみれ（伊藤蘭）に出会います。すみれ、働きながら勉強したいと言い、寅さん、柴又に連れて来て、世話を焼きます。寅さんは定時制の授業にまで顔を出し、クラスの人気者に。入学願書まで書く始末です。



本音はすみれと一緒に居たいだけの寅さんです。願書に書いた映画の寅さんの生年月日は昭和15年11月29日と判明。（平野寅次郎の2歳年上でした）。恋人が迎えに来て、結婚宣言のすみれに「幸せになれ」と失意の旅に。徳島で奥尻島で会ったご婦人たち一行の巡礼ツアーに仲間入りして明るく幕。

1983年（昭和58年）8月公開の第31作「男はつらいよ 旅と女と寅次郎」のラストシーンで羊蹄山をバックに登場します。作品は佐渡が舞台なので、「聖火リレー-11 新潟県」をご参照ください。

次回は 東京の博物館めぐり-3 です。

平野 寅次郎 拝